

## 令和7年度 県立水海道第一高等学校附属中学校 自己評価表

目指す学校像	学校生活全体を通して、さまざまな視点から生徒の好き、得意、やりたい、なりたいを引き起こし、そこから生まれる主体的な学びを支援、正解のない未来に人生を主体的に切り拓ける人間形成に資する。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>○各教科において、生徒が主体的に学習に向かうような仕掛けや授業展開を行うことへの意識の高まりが見られた。外部講師を迎えての学習機会や語学研修旅行を横断的な学びとする意識をもつことで、主体的に「自学」に向かう姿勢を養っていく必要がある。</p> <p>○海高クリエイティブスクール等で様々な大人の話を聞くことにより、多様な生き方のイメージをもたせることができている。今後も社会人としての生き方をイメージできるキャリア教育の推進していく。</p> <p>○1年生で探究活動のオリエンテーションを行い、2年生で地域探究を行う体制を構築することができた。3学年では、企業インターンを通して探究を深めることができた。今後は、さらに生徒が自走するための、外部を活用した面白い探究授業を実践していく。</p> <p>○年間を通した面談やSCによる面談など、生徒理解、生徒支援を進めている。「海高ブランド」意識の醸成により、自ら律することができる生徒育成を目指したい。</p> <p>○学校行事や部活動において生徒主体の運営はほぼ達成できている。生徒運営へのサポートとリーダーシップ育成を援助し、さらに深淵とした行事になるようにしたい。</p> <p>○本校教育の理解促進や生徒募集に寄与できるよう、外部連携事業の内容公開や、PVのリニューアルを含め魅力度向上を目指したい。</p> <p>○主体的な学びを引き出す日々の授業について、研修を含め組織的に改善していきたい。</p> <p>○分掌内での業務の分散により平準化を進め、働き方改革を進める必要がある。</p>	<b>学習指導 (教育課程)</b>	① 生徒の主体性を育むことを第一に、学校生活全体で機会の創出を行う。	A
		② ICT活用やグループワーク等、生徒の主体的な学びにつながる創意工夫を行い、結果、生徒が主人公である授業を常態とする。	
		③ 教育ベンチャー6社と共同開発した海高式探究プログラムの整備や、語学研修旅行の拡充による横断的な学びを進める。	
	<b>進路指導 キャリア教育</b>	④ 生徒が主体的に人生を切り拓くために、職業、進路選択について対話的に学ぶ学習活動を行う。	A
		⑤ 点数や偏差値で自分の達成度を測るとともに、数値だけではない職業観やキャリア観を育てるために、多様な情報と社会的見地を踏まえた、総合的な進路指導を行う。	
		⑥ 大学受験を見据えた進路指導を行うとともに、その後の社会人としての生き方をイメージできるキャリア教育を行う。	
	<b>生徒指導</b>	⑦ 海高附属中生としてふさわしい身だしなみ、言動を自ら考え、実行を促す生徒指導を行う。	A
	<b>特別活動 キャリア・パスポートの活用</b>	⑧ 生徒主体の、特に観る人の存在を意識した行事運営をサポートする。	A
		⑨ Classiなどのコミュニケーションツールを活用し、生徒のキャリア形成をサポートする。	
	<b>教育環境整備</b>	⑩ 教室のデザイン変更試行とその分析をして、有効な方向性と活用法を議論する。	B
	<b>地域との連携 (保護者、地域住民等)</b>	⑪ 常総市アグリサイエンスバレーと探究プログラム、常総市と本田技研によるAI街づくり協定と探究活動による連携を強化する。	A
		⑫ 文化部による地域の伝統芸能取材、伝統行事の定期戦実施、ボランティア活動で地域との連携を強化する。	
	<b>保健管理 安全管理</b>	⑬ スクールカウンセラーの配置、いじめ対策委員会の定期的な開催など常に情報を把握することで生徒理解と問題の早期発見解決に努める。	B
		⑭ 防災訓練、交通安全指導など各種講習の実施による生徒の危機管理意識づくりと、危機管理マニュアルの遵守と見直しにより学校安全を確保する。	
	<b>研修 (資質向上の取組)</b>	⑮ トップティーチャー模擬授業、コーチング研修、ダイバーシティ研修などオリジナルで必要なものをハイレベルに提供する。	A
		⑯ 先進校視察もより深い視察が可能なプログラムを先方と調整して行う。	
	<b>情報提供 (広報、生徒募集)</b>	⑰ 学校説明会、学校公開日に加え、塾などへの学校説明の定期的実施、ハイクオリティなPVの制作など広報を充実する。	A
		⑱ 課外イベントの開催、総合的な学習の時間の話題性をもとに広くマスメディアにもアプローチする。	
	<b>コンプライアンス 働き方改革</b>	⑲ コンプライアンス違反をゼロにする。	A
		⑳ 時差出勤の積極的な活用及び臨機応変な働き方の導入により教職員の負担を軽減する。	
	<b>授業改善について</b>	㉑ 第1回授業満足度調査において令和6年度第2回の全教員平均値である3.5を上回る、第2回では令和7年度第1回のスコアを上回ることを目指す。	B

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	国語	主体的・対話的で深い学びを実践する。	グループワークなど生徒主体の学習を通じて、国語への関心を高める。	①②③	A	・グループワークやICT機器の活用を通じた生徒主体の学習展開を引き続き進める。 ・基礎学力の定着に関して、個に応じた対応を進める必要がある。
			ICT機器の活用を推し進めて、より教育効果の高い学習指導の充実に努める。	①②	B	
		学習習慣の定着と基礎学力の向上に努める。	小テストや課題等によって、学習時間を充実させる。	①②	A	
			問題演習を行い、文法や単語の知識を解釈に活用する力を養う。	①②	B	
	社会	主体的・対話的で深い学びを実践する。	グループワークやリフレクションなど生徒主体の学習を通じて、社会的事象への関心を高める。	①②③④	A	・生徒自身が資料を選択したり、課題を発見、設定する場面を確保する。 ・単元や授業ごとに課題を設定し、その振り返りを行っているが、生徒がより見通しを持てるような課題提示や振り返りの活動を行いたい。
			ICTの活用や言語活動の充実を通して対話的な学びを行い、自らの思考を深め、論理的に表現する力の育成を図る。	①②③⑤	B	
		社会学習のための知識基盤を形成する。	授業・課題で多様な社会的事象を取り上げ、基礎的知識、社会的な見方・考え方に通じる概念の獲得、定着を図る。	①②	A	
	数学	学習習慣の定着と基礎学力の向上に努める。	習熟度別に個別指導やグループ学習を効果的に使い分け、学習意欲を喚起し、基礎学力の確立を図る。	①②	B	・基礎的、基本的な学力の定着を目指し、習熟度別による指導や個別指導を引き続き充実させる。 ・ICTの活用については、単元や生徒に合わせて適切な活用方法を検討する必要がある。 ・テキスト以外の教材や問題に興味を持ち、取り組める生徒を増やしていきたい。
			年間の指導計画に基づいて、課題やテストを実施し、学習習慣と基礎学力の定着を図る。	①②	B	
		様々な数学的な見方や考え方を働かせ、数学的に考える資質・能力を育成する。	授業時における課題や発問を工夫し、数学と実社会との関連について考え、アウトプットする機会を多くする。	①②③	A	
			ICTやグループ活動などを活用し、数学の社会における有用性や、学んだ知識をさらに応用していく発展性などを、生徒が主体的に学べる授業を展開することで、生徒に数学のよさや面白さを実感させる。	①②④	B	
	理科	生徒が主体的に考えることを重視した課題の工夫を行い、科学的な思考力・判断力・表現力を育成する。	授業内で、課題に対して、個人やグループで考え、話し合いを行う中で、生徒が主体的に資料やタブレット等の情報機器を活用しながら探究する場面を設定する。	①②	A	・タブレットの活用の仕方を、調べ学習だけでなく、結果のデータ整理等にも活用したい。
			生徒が主体的に活動することができる授業を展開できるよう、教材研究や研修、相互授業参観を積極的に行う。	④	B	
	音楽	音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。	音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。	①②④	A	A
美術	感性や想像力を働かせ、造形的な視点を持ち、生活や社会の中の美術や美術文化と関わる能力を育成する。	生徒一人一人が自分の心情や考えを生き生きとイメージし、表現する活動を展開する。	①②④	A	B	・主体的・対話的で深い学びを一層充実したものにし、生涯にわたり芸術を愛好する心情を養っていきたい。
		よさや美しさなどを主体的に感じ取り、作者の心情や美術文化について考える見方・感じ方を深める鑑賞活動を行う。	①②④	B		

保健 体育	基礎的運動能力、体力の向上を目指す。	スモールステップの設定により成功体験の機会を増やし、技能の向上と意欲を高める授業を目指す。 ①②	A	B	・運動に日常的に親しむ心を育てるために、日常で簡単に組み入れる運動例などを紹介し、授業に取り入れていきたい。 ・学習した内容を昼休みに遊べるようにする。
		ICTの活用やペアやグループなど言語学習を通して、思考力・判断力を高める授業を目指す。 ②	A		
	主体的に体育・スポーツに関わる習慣を身に付ける。	保健の授業において、運動と健康のつながりから、生涯を通じて運動に取り組む重要性を理解できる授業を目指す。体育において、協力したり、達成したりする喜びや楽しさを味わい、主体的に運動に取り組む態度を養う。 ①②	B		
技術・家庭	生活を工夫し創造しようとする実践的な態度の育成を推進する。	学習過程の中で生活の営みに係る見方、考え方を働かせる授業の工夫を行う。また、教材整備指針に基づいた教材の計画的な整備と定期的な保守点検を行う。 ①②⑥⑦	B	B	・各課題でP D C Aサイクルを確立する。 ・実生活で生きる課題解決学習を引き続き実施する。
		生活と技術についての基礎的な理解を図り、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度の育成に努める。 ①②⑥⑦	B		
外国語	主体的に学習に取り組む態度を培い、グローバル社会で活躍できるコミュニケーション能力の育成を目指す。	授業内外での実践的な活動及び4技能を統合させた対話的な言語活動を通して、コミュニケーションをとるための基本的な知識と技能の定着を図る。 ①②	A	A	・生徒が自らの学習を調整する力を育成するために、デジタル教材や自主学習の定着を図る。 ・英語発信力、思考力・判断力・表現力の向上を目指した、単元の見通しをもった授業を継続する。
		ICT機器の活用や少人数での対話的な授業展開を通して、日常的な話題や社会的な話題について情報を整理しながら英語で表現したり、伝え合ったりする力の定着を図る。 ①②⑦	A		
		授業の振り返り等を通して生徒の自ら学習を調整する力を育成し、学習サイト等を活用して主体的に学習に取り組む態度の定着を目指す。 ①②	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教 務	授業の充実による学力向上	「わかる授業」を展開するために授業の工夫や指導体制の改善を行い、「校内相互授業参観」週間を充実させるなど、研修体制を整える。校外で行われる研修会へも積極的に参加するように促し、授業改善へとつなげる。 ①②③	A	A ・主体的な学びにつながる授業づくりに努め、デジタル機器の活用を含めた校内外での研修等の充実を目指す。 ・中高一貫校の特性を生かした教育課程の編成を引き続き進める。 ・探究活動を取り入れた生徒主体の「学校説明会」を継続させるとともにホームページ等の広報を充実させていく。 ・海一マルシェは、学校の取り組みを地域に発信する好機となった。引き続き地域イベントへの参加を教育活動に繋げていく。
	適切な教育課程の編成	他の小中学校とも情報交換を密にし、生徒の学力や希望にあった教育課程を研究する。魅力ある学校づくりを目指して、各教科や分掌との連携を図る。 ①	B	
	入試広報活動の充実	学校内外の「学校説明会」の場を利用し、小学生・保護者の本校への興味・関心を高める。小学校や塾訪問を行い、本校の教育目標や活動について積極的な広報に努める。 ⑭⑮	A	
	地域との連携を目指した広報活動	生徒の積極的な地域イベントへの参加やホームページの充実と積極的な情報発信に努める。 ⑪⑫⑭⑮	A	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	服装・頭髮指導の徹底を図るとともに、時間を守ることができる生徒を育成する。 ⑦	A	B ・生徒会や生活委員を中心に定期的にあいさつ運動を実施することを通して、自発的にあいさつができるようにしたい。 ・スマートフォンの使い方について、保護者とも連携して指導していく必要がある。
	マナーの向上(交通・挨拶等)	交通マナーアップ運動や交通安全教室等を通して交通マナーの向上に努める。 ⑦	B	
		朝の登校立哨・あいさつ運動などを通してマナーの向上とコミュニケーションの充実を図る。 ⑦	B	
		スマートフォンの利用のルールを設定し、校内での使い方やSNSのトラブルに巻き込まれないよう注意を促す。 ⑦	A	
進路指導	キャリア教育の推進と学力向上	高校と連携し、生徒の進路意識の高揚を図るとともに、授業を中心とした主体的かつ計画的な学習を促進させる。 ④	B	A ・第2学年では、国内語学研修と共に企業訪問を行った。高校1年次主任からの進路講話の時間を設けた。 ・第3学年の探究で企業との連携を図った。また大学調べを実施した。 ・ハイレベル模試は昨年よりも受験者を増やすことができた。 ・学力推移調査の分析やデータ活用について、職員間での共有をさらに図りたい。
		学年と連携し、職業学習や進路選択学習を通して、情報提供と生徒のキャリアについての意識を高める。 ④	A	
		高校進学後について、具体的な進路目標がもてるように導く。 ⑤	A	
	進路情報の活用	6年間の学習成績と最終的な大学の合否がリンクした形でのシステムを構築し、職員研修等を実施して、進路指導における有効活用を図る。 ⑥	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
特活指導	生徒会・委員会活動の充実	学校行事での生徒会の自主的、自発的な活動を尊重し、生徒が自ら考え、計画立案ができるようにする。また、学校生活の充実と向上を図る。 ⑧	A	B ・委員会による仕事量の差が出ないよう、各種委員会で学校生活の改善のための活動を考えさせたい。 ・各行事や学期での振り返り、スコラ手帳での生活や学習の振り返りを行えるようにしていきたい。
		各種委員会で校内活動を中心に、学校生活をよりよくするための活動を行う。 ⑧	B	
	ボランティア活動を通じた社会参画	ボランティア活動を通して、他校や、地域の人々との交流を図り、地域の社会づくりに参画しながら、地域貢献を目指す。 ⑨	B	
	キャリアパスポートの活用	行事や学期末に振り返り活動を行い、キャリアパスポートを積極的に活用して、キャリアプランニング能力を高める。 ⑧	B	
保健厚生	生徒の健康保持及び増進	熱中症や食中毒及びインフルエンザ等の感染症の予防対策を推進する。 ⑩⑭	A	A ・各行事における生徒の健康管理について、引き続き他の校務分掌との連携を図っていく。 ・防災訓練について、今年度の反省点から改善を図っていく。 ・カウンセリングを受けた生徒についての所見は、カウンセラー・担当者と年次・担任で共有する時間を取り生徒のサポートをしていく。 ・特別な配慮を必要とする生徒への支援について、保護者と情報共有をしていく
		保健室来室者の状況を把握し、保護者・関係職員と連携し、健康回復を目指す。 ⑬	A	
		防火防災訓練を実施し、防災意識の向上を図る。 ⑭	B	
	教育環境の美化	清掃の徹底とごみの分別などの環境美化活動を推進する。 ⑩	A	
		空調機器の健康的かつ効率的な運用を図る。 ⑩	A	
	メンタルヘルスケアの充実	スクールカウンセリングを定期的実施し(年30回以上)、生徒及び保護者の精神的支援に努める。 ⑤⑥	A	
		カウンセリング前後に関係者との連絡協議を行い、必要に応じて外部機関との連携を図る。 ⑩⑪	B	
	特別支援体制の充実	学校生活上、特別な配慮を必要とする生徒に適切な支援を行う。 ⑬⑮	A	
学校HPやSC通信活用して、特別支援者への理解と周知を図る。 ⑬⑱		B		
渉外	PTA活動の活性化による会員の連携構築と教育活動の支援	本部役員を中心に会員全体が協力し充実したPTA活動の実施に努め、会員相互の連携をもって学校を支え、生徒の主体的な活動や進路実現を支援する。 ①⑤⑥⑧	A	A PTA支部の廃止の伴い本部役員や広報委員の選出方法を見直し、さらなるPTA活動の活性化と教育活動の支援に努めた。 主な生徒会行事の写真を保護者と共有することにより、学校への意識を高め、地域との連携や海高の広報活動に寄与する。
	各行事の充実と地域へのアピール	各行事等における保護者への積極的な呼びかけやHPなどを活用した広報活動により、保護者の学校への意識を高めるとともに、地域との連携や附属中の広報活動に寄与する。 ⑪⑱	A	
図書	図書環境と出版物の充実	常時開放・常時閲覧を推進する。パソコンでの蔵書管理により新刊図書の紹介を円滑に行い、読書や探求学習を援助する。センターホールおよびクラス文庫の有効活用をする。『済美』の発行を行う。 ⑤⑧⑩	B	B ・クラス文庫の定期的な入れ替え、図書委員だよりの作成等、生徒が興味を持つような工夫の考案・宣伝をし、読書活動を促進する。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
第1学年	学習習慣を確立し、主体的に学習に取り組む生徒の育成	授業や課題を通し、基礎・基本の定着を図るとともに、生徒が主体的に学ぶことができるように、「学び方」についての学習指導を行う。 ①②⑨	B	B	・目的意識や目標をもって学習に取り組めるように指導する。 ・学習計画の作成・評価を行う。 ・生徒の理解度に応じた課外や補習を実施したい。
		フォーサイト手帳の活用を通し、見通しをもって自主的に学習に取り組む態度を育成すると共に、面談を定期的に行い、個に応じた助言や支援を行う。 ①②⑥⑧	B		
	礼儀正しく、他者と協働することができる生徒の育成	学級活動や道徳の授業を通して、礼儀正しく生活する態度と互いの人権を尊重する態度を育てる。 ⑤⑥⑦	B	B	・場面に応じた言動を心がけたり、自ら進んであいさつができるよう指導する。 ・道徳の授業の充実を図る。
		きちんとした返事やあいさつができ、お互いに声をかけ活動できるような集団づくりを心がける生活指導を行う。 ⑦	B		
	主体的に考え、判断し、行動することができる生徒の育成	各活動を計画的に実施するとともに活動方法についての助言をし、学習、学級活動、学校行事を生徒主体で行うことができるようにする。 ③④⑩⑫	A	A	・生徒が主体的に活動する学級経営。 ・生徒同士や教員に対して質問することを通して学びを深めらるるような助言・指導を行う。
		各学習活動で探究学習を実施し、自分で問いを立て、考え、納得解を出せるように支援する。 ③④⑩⑫	B		
第2学年	学習習慣を確立し、主体的に学習に取り組む生徒の育成	授業や課題を通し、基礎・基本の定着を図るとともに、生徒が主体的に学ぶことができるように、探究的な課題を設定し、「学び方」についての学習指導を行う。 ①②⑨	A	A	・朝の学習タイムや考査前の補講など、生徒が自分の課題に合わせて学習する場面を設定した。継続したい。 ・考査終了後に振り返りの時間を設けたが、それを生徒がいかせるような指導に課題がある。
		フォーサイト手帳の活用を通し、見通しをもって自主的に学習に取り組む態度を育成すると共に、面談を定期的に行い、個に応じた助言や支援を行う。 ①②⑥⑧	B		
	礼儀正しく、他者と協働することができる生徒の育成	学級活動や道徳の授業を中核として、礼儀正しく生活する態度と互いの人権を尊重する態度を育てる。 ⑤⑥⑦	B	B	・道徳の担当教員を輪番制にして、多面的な指導を行った。継続したい。 ・生活の約束を自分たちから守ろうとする自浄作用を涵養する必要がある。
		学校や授業の約束を徹底し、規律ある生活が送れるようにするとともに、協同で学ぶ場面を多く設け、互いに声をかけながら活動する集団づくりを行う。 ⑦	B		
	主体的に考え、判断し、行動することができる生徒の育成	学級活動、生徒会活動、学校行事を通してリーダーを育成し、活動を計画立案や運営について助言をし、生徒主体で活動を行うことができるようにする。 ③④⑩⑫	A	A	・授業、学活、学校行事などで、多くの生徒にリーダーとして活動する場面を設定し、生徒の自主性を高めた。
		各学習活動で探究的な課題を設定することで、自分で問いや仮説を立てて考え、判断する力を育てる。 ③④⑩⑫	B		
第3学年	学習習慣を確立し、主体的に学習に取り組む生徒の育成	授業や課題を通し、基礎・基本の定着を図るとともに、生徒が主体的に学ぶことができるように、「学び方」についての学習指導を行う。 ①②⑨	A	A	・定期的に面談を実施しながら生徒一人一人に応じた学習・進路指導を展開できている。 ・課外や補習の充実をさらに図っていききたい。 ・成績中位層、下位層の生徒に向けて、学力向上に向けて、アプローチの仕方を工夫していきたい。
		フォーサイト手帳の活用を通し、見通しをもって自主的に学習に取り組む態度を育成すると共に、面談を定期的に行い、個に応じた助言や支援を行う。 ①②⑥⑧	A		
	礼儀正しく、他者と協働することができる生徒の育成	学級活動や道徳の授業を通して、礼儀正しく生活する態度と互いの人権を尊重する態度を育てる。 ⑤⑥⑦	A		
		きちんとした返事やあいさつができ、お互いに声をかけ活動できるような集団づくりを心がける生活指導を行う。 ⑦	B		
	主体的に考え、判断し、行動することができる生徒の育成	附属中学校最高学年としての自覚と誇りを持ち、リーダーとして下級生を引っ張っていきける生徒を育てる。 ⑦	A		
		各活動を計画的に実施するとともに活動方法についての助言をし、学習、学級活動、学校行事を生徒主体で行うことができるようにする。 ③④⑩⑫	A		
各学習活動で探究学習を実施し、自分で問いを立て、考え、納得解を出せるように支援する。 ③④⑩⑫	B				

※評価基準 A:十分達成できた(達成度80%以上) B:概ね達成できた(達成度60~79%) C:やや不十分(達成度40~59%) D:全く不十分(達成度39%以下)